

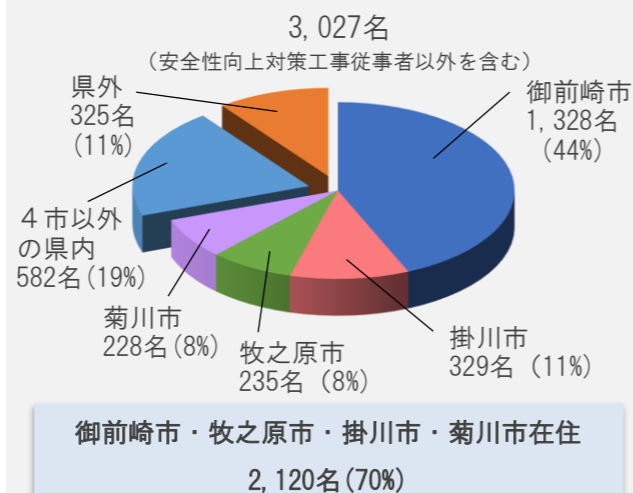


中部電力

今月号のお知らせ内容

- ① 静岡県および御前崎市による津波対策工事ほか追加工事の点検および確認
- ② 緊急事態対策訓練
- ③ 災害対策組織の紹介

浜岡原子力発電所従事者数（3月1日現在）



※四捨五入により100%とならない場合があります。

① 静岡県および御前崎市による津波対策工事ほか追加工事の点検および確認

第92回（2月19日）点検および確認内容

・高圧炉心スプレイ系蓄電池容量の増強工事

高圧炉心スプレイ系蓄電池とは

万一の重大事故が発生した場合、炉心は高温・高圧状態となるため、炉心損傷を防止するための冷却設備が必要となります。高圧炉心スプレイ系設備は、高圧状態の炉心にも冷却水を注水可能な設備のため、重大事故時には重要な設備です。

今回ご紹介する高圧炉心スプレイ系蓄電池は、高圧炉心スプレイ系設備の運転に必要な直流電力を供給するための設備です。この蓄電池は、福島第一原子力発電所の事故以前から設置していましたが、事故の教訓を受けて蓄電池からの電力を長時間供給（8時間⇒24時間）できるよう、蓄電池の数を大幅に増加する工事（蓄電池容量の増強工事）を実施しました。



高圧炉心スプレイ系蓄電池

静岡県からの講評

本設備は緊急時に使用する重要な設備であることから、今後とも点検を適切に実施し、設備の維持管理を図っていただきたい。

御前崎市からの講評

蓄電池の増強のうち高圧炉心スプレイ系蓄電池容量の増強工事について、中部電力の計画どおりに進んでいることを確認した。



高圧炉心スプレイ系蓄電池容量の増強工事の確認の様子

② 緊急事態対策訓練



発電所での対策訓練



中部電力本店での対策訓練



社内各部署との連携訓練

2月28日、当社は万一の重大事故発生に備え、事故収束へ向けた対応能力の向上を目的に緊急事態対策訓練を実施しました。本訓練は社内各部署が連携して同時間に同一の訓練シナリオにより実施する総合訓練の1つです。

訓練では様々な評価項目を設け、訓練の対応状況について検証しています。今回の訓練では特に複数号機同時被災※を想定したシナリオに対しての対応状況に重点を置いて実施しました。

当社は、今回の訓練から抽出された課題や改善事項にも真摯に取り組み、災害対応能力の向上に今後とも努めてまいります。

訓練実施部署・場所

浜岡原子力発電所、本店、東京支社、静岡支店等（参加人数：約600人）

※ 福島第一原子力発電所の事故では、同時並行による複数号機の事故収束対応に追われました。この教訓から、複数号機同時被災への対応能力の向上が重要であると考え、今回の訓練想定に反映しました。

③ 災害対策組織の紹介

当社は福島第一原子力発電所の事故を踏まえて、全社で災害対策組織の見直しを行いました。

本店の災害対策組織は、原子力災害対応に特化した『緊急事態対策本部』と電力供給対応に特化した『非常災害対策本部』の2本部体制に見直しを行っています。

また、浜岡原子力発電所近傍の営業所や電力センター（計6箇所）には原子力災害時に発電所への支援物資の搬送や交代要員の派遣等を行う『災害対策支援拠点』を整備しています。

次回以降は、発電所の『緊急事態対策本部』についてご紹介いたします。

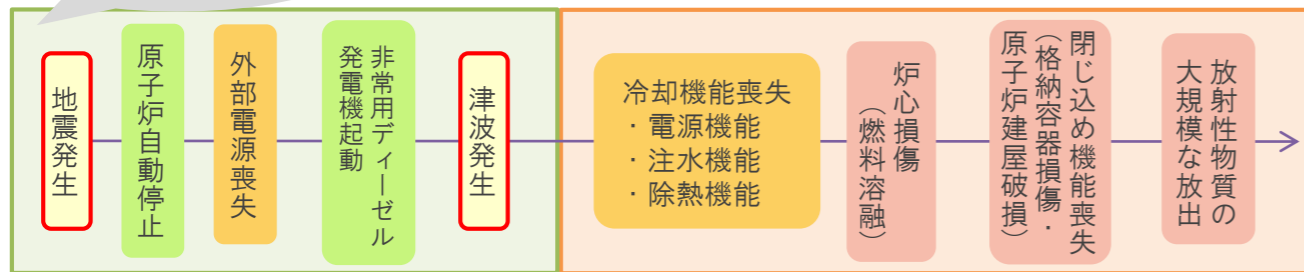


発電所の安全性を更に高めるための取り組み【概要】

福島第一原子力発電所の事故の教訓から、発電所では地震や津波等の様々な事態に対処するために、設備の追加配備や現場対応力の強化をおこなっています。主な取り組みをみなさまへご紹介いたします。

①福島第一の話

福島第一原子力発電所の事故の場合は、以下のように事象が進展しました。



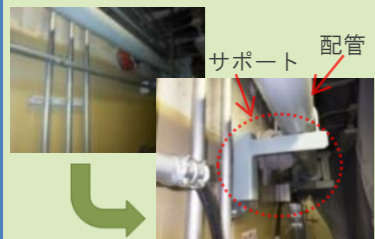
発電所では、福島事故の前から電源や注水、除熱の機能をもつ設備を多重性・多様性をもって配備していますが、事故以降、様々な追加対策を講じ、更に発電所の安全性を向上させています。

②設備の話

従来の設計基準の事故に加えてより厳しい想定 of 重大事故に対処するため、様々な事態を想定し、対策を実施しています。また、対策に柔軟性を持たせるために、可搬型の設備も配備しています。

【主な設計基準事故対処設備】原子炉施設の安全を確保するための機器が、一斉に機能喪失しないようにします。

巨大地震に耐える。
原子炉建屋は岩盤に直接設置され、地震に強い構造としています。また、配管サポートの追加をはじめとした重要な設備の耐震補強を実施しています。



津波を浸入させない。
津波が発電所に来襲した場合、海抜22mの防波壁で敷地内への浸水を防ぎます。万が一、敷地内に浸水した場合でも強化扉・水密扉により建屋内の浸水を防ぎます。



自然災害に備える。
発電所敷地外で発生した火災が発電所施設に燃え移らないように防火帯を設置します。



【主な重大事故等対処設備】

冷やす機能を確保し、重大事故に至らないようにします。また、重大事故等の発生を想定し、事故の進展を防ぐ機能を強化しています。

恒設

電源機能強化
ガスタービン発電機
高台40m地点から電気を供給

注水機能強化
緊急時淡水貯槽
高台30m地点から原子炉を冷やす水を供給(7日間分)

除熱機能強化
緊急時海水取水設備
既設の海水取水ポンプが故障した場合に備え同様な設備を設置

可搬

交流電源車
恒設の交流電源設備が故障した場合に備え配備

可搬型注水ポンプ車

可搬型取水ポンプ車
恒設の注水設備が故障した場合に備え配備

重大事故の発生に備える

フィルタベント設備
格納容器の破損を防止するため、気体を外部へ放出する際は、放射性物質を吸着するフィルタを通し、セシウムなどの放出量を1000分の1に抑えることで避難の長期化を防止します。

放水砲設備
原子炉建屋の水素爆発を防止するため、建屋から水素を排出した際に放水砲により放射性物質を地上に落とし放射性物質の拡散を抑えます。

重大事故等に柔軟に対応するため、可搬型車両やその保管場所を確保し分散配置します。対応現場へ出動できるよう、複数のアクセスルートの確保に取り組んでいます。

③現場対応力の話

配備した設備が期待通りの機能を発揮するためには、扱う「人」の「現場対応力」が必要だと考え、強化しています。

【初動対応の強化】

緊急時即応班を設置し、運用開始に向けて増強しています。

24時間 365日体制
緊急時に特化した幅広い対応力



役割
・戦略検討 (現在19名)
・アクセスルート確保
・可搬設備の操作等
現場対応

【手順の整備・資格の取得】

設備導入に伴い、必要な手順の追加や免許等の資格の取得をおこなっています。



〈取得免許例〉
・大型自動車免許
・けん引免許
・移動式クレーン免許 など

【訓練の充実】

目的に応じて様々な事故・事象への対応を網羅的に確認・強化し、緊急時に対応する組織の能力を総合的に向上させます。

総合訓練



主に現場や発電所外との連携、対応手順の確認を目的に実施しています。

図上演習



判断能力の向上を目的とした訓練を2015年度から実施しています。

個別訓練

新たに設置した設備の手順を確認するとともに、可搬設備の操作等に必要力量の向上に努めています。(年600回程度)



シミュレータ訓練



電源車操作訓練



可搬型モニタリングポスト設置訓練

今後も、安全最優先で、浜岡原子力発電所の運営に努めてまいります。また、地域の皆さまからいただいた声に丁寧にお応えし、皆さまに信頼いただける発電所を目指してまいります。